

民精神總動員資料第五輯
(內閣 · 內務省 · 文部省藏版)

特255

769

國產振興と國產愛用

民精神總動員中央聯合

5

3
2



始



國產振興と國產愛用

商 工 省

一 國產振興と銃後の護

今次の支那事變も未だに支那の反省を見ず今や其の戦線は北支、中支及南支に全面的に擴大せられた。言ふ迄もなく現代の戦争に於ては最後の勝利を得るためには戦線にある忠勇なる軍隊の戦闘力に負ふことは勿論であるが、同時に銃後にある國民が舉國一致熱誠溢るる聲援を之に送り、凡ゆる資源を全國民が各々其の分に應じ全智全能を傾けて綜合運営し以て尨大なる軍需資材の補給に萬全を期しなければならぬことを忘れてはならないのである。即ち近代戦争は單なる武力戦ではなく思想戦であり經濟戦であるから、我々は武力に於てのみならず精神力に於ても經濟力に於ても外敵に打勝つの覺悟と用意とが必要なのである。

此の經濟戦に打勝つ方策は多々あるであらう。直接間接軍の需要に充つべき物資と資金を出來得る限り潤澤に供給するが爲に所謂消費の節約も必要であらう。資金の調整も必要であらう。軍需資材の輸入力を確保するが爲に不急不要品其他軍需以外の用途に振り向ける物資の輸入を制限することも必要であらう。資源の活用を圖るが爲に廢品の回收に努めることも必要であらう。此等の方策も勿論

必要であり緊急を要するのであるが、之等は謂はば消極的方面であつて、他面に於て積極的方面たる國産の振興があることを忘れてはならないのである。國産振興は元來國産愛用と相俟つて國際收支の改善を目的とするものであつて之に就ては後に詳説することとするが現下の情勢に於て國産振興には更に新しい意義が加へられるに至つた。それは他でもない國防産業の維持發展即ち所謂生産力の擴充である。

翻つて我國産業の現状を見るのに、最近驚異的の發展を爲したとは謂へ未だ部門に依つては遺憾の點が尠くないのである。

我國は由來纖維工業の發達著しい國として世界に獨特の地歩を占めて居る。即ち絹織物は我が國民独自の技巧を凝らして他の追隨を許さず、綿織物も亦世界の市場至る所に進出して居る。更に又人絹工業は諸外國に遅れて勃興して來たに拘らず驚異的なる發展を示し、其の人絹生産高は先進國英、獨佛、伊の諸國を遙に凌駕し、昭和十一年に於ては長年世界第一位の人絹生産國として覇を唱へて來た米國と匹敵するに至つた。

然るに一方所謂重工業即ち金屬工業、機械工業等の方面はどうであるかと言ふと、歐洲大戰後顯著な發展を遂げて來たとは謂へ未だ其の發展は充分とは言へないのである。即ち製鐵業に就て述べれば鋼材は大體自給の域に達してゐたのであつたが、最近は事變關係で相當供給の不足を來し、銑鐵及屑鐵は從來より相當の輸入を必要とし、鐵礦石に至つては其の需要の大半を輸入に仰いでゐる状態である。

次に石油(精製)業は相當發達して來たが尙多量の石油製品の輸入を必要とし、殊に原油に至つては其の資源に乏しい關係上需要の大部分を海外からの輸入に仰いでゐる。然も石油に代るべき人造石油の製造事業は未だ其の發展の緒に就いたばかりである。

各種工業の基礎となる機械工業は最近著しい發展を示し、其の製品も凡ゆる分野に互り外國品と比較して遜色なき迄に至つたが、猶工作機械、自動車等の製造に於て遺憾の點があり、殊に最近に於ける軍需工業の急速なる發達に伴ひ各種機械類の不足を來しつつある。

以上に述べた重工業は即ち國防産業であつて、現在の我國として全力を擧げて其の發展、生産力の擴充に努力せねばならぬ部門なのである。之に關係ある企業家、資本家、金融業者等の努力と協力とを望む所以である。

次に前にも述べた如く、軍需資材の輸入力を確保するが爲には國際收支の適合を圖らねばならぬ。之が爲には勿論不急不要品等の輸入を制限する必要があるのであるが、更に進んでは輸出の振興を圖り、我國の受取勘定を増加せしめねばならぬのである。現在の如く各國競つて關稅障壁を高くし、或は輸入割當制、パーター制を採用して輸入防遏に腐心して居る状態に於ては本邦商品の海外進出は眞に至難である。然し乍らそれ故にこそ亦輸出の業務に携はる人々の業務は重いのであると言ひたい。

次に又軍需資材の需要激増、輸入の制限に伴つてどうしても國內物資は不足して來る。茲に於て需給の調整を行ひ物資の配給を圓滑にし、以て物價の昂騰を防がねばならぬのである。之は一に商業に

携はる人々の誠實なる態度と眞摯なる活動に依つて達成せられるのである。

我々銃後の國民の責務は斯くの如く重いのであるが、事變の進展に伴ひ應召者の數が増加して行くに従つて益々其の責務は重くなるのである。即ち國民は各自其の業務に精勵して産業の振興を圖ると共に、一方に於て隣保相扶の精神を以て應召者の家族を扶け、其の業務を維持して行かねばならぬのである。

二 國産愛用の意義

國産愛用と言へばもう聞き飽きたと思ふ人も多いであらう。實際國産品愛用の問題は昭和五年頃から喧しく唱道された結果、既に我々國民の腦裡に相當深く染み込んだ様に思はれる。又本邦工業も近年目覺ましい躍進を遂げたので、其の製品は店頭を埋め、我々の生活を取り巻く品物の大部分は國産品が占めてゐる有様である。併し乍ら我々は今再び國産愛用の意義を検討し、より眞剣な覺悟を以て之が徹底を期さなければならぬ事態に立ち至つてゐるのである。即ち國産愛用こそは前項に述べた國産振興と國際收支の改善の爲に國民が協力すべき最も有效なる方法であるからである。

以下稍々詳しく今日の事態に於ける國産愛用の意義に就て述べるに先立ち、順序として從來の國産愛用運動の沿革に觸つて見度い。

我國が國産品の製造を奨勵し、其の國內使用の普及、海外に於ける販路の擴張に努力することにな

つたのは遠く大正三年のことであつた。政府は國産奨勵會を設立して之に補助金を與へる等種々の方策を講じたのである。之は日清、日露の兩戰役を経て我國の産業特に工業は劃期的な發展を遂げたのであるが、歐洲大戰前及其の當初に於ては我國の貿易は依然輸入超過を續け、國民の間にも舶來品崇拜の陋習は尙根強いものがあつたので、發展の軌道に乗つた我國の工業の確立を圖る爲に國産愛用運動が開始されたのである。

歐洲大戰中は外國品の輸入が杜絶し、逆に海外から大量註支が殺到したので、各種の工業の勃興を見、貿易關係も一轉して輸出超過となり、人々は此の異常な好景氣に酔つたのである。斯くして貿易關係の好調と新興工業の勃興とは國産愛用運動を一時稍々下火ならしめるに至つた。

然るに戰爭の終熄と共に我國の對外貿易は忽ち逆轉し、大正九年の反動恐慌に次いで大正十二年の大震火災に襲はれ、復興の爲に要する資材の需要は急激に増加し、之の爲に輸入超過は益々大となり、爲替相場は暴落した。茲に於て國際貸借關係の改善は焦眉の急務となり、輸入抑制を目的として國産振興國産愛用の運動は再燃した。

大正十四年に海外拂節約協議會(大藏省内)、國産振興會(民間團體)、大正十五年には國産振興委員會(商工省内)等の設置を見、國産振興運動は最高潮に達したのである。

昭和五年には金輸出解禁の結果、物價低落、爲替相場急騰の二重の打撃を受けて我國經濟は一大試練に直面したのであるが、之が對策として商工省内に臨時産業合理局が設置され、同局に國産品愛用

委員會が置かれて不況打開に努めたのである。

以上國産愛用運動の経過から見ても明かな如く、それは主として二の大きな働きを以て我國の經濟に貢献して來た。貿易の改善に依る國際貸借關係の改善がその一であり、國內の産業振興がその二である。そして現下の我國内外の情勢は前にも述べた通り、この二の作用の故に國際愛用の徹底を必要としてゐるのである。

(一) 國産愛用と國際收支の改善

昭和十二年に入つてから我國の貿易は入超が顯著になり、其の後も益々増加の傾向をとつて來た。之には世界的な物價騰貴や見越輸入等色々の原因が競合してゐるが、現下の國際情勢に即して軍需工業の生産力を急速に擴充するが爲に多量の生産手段、原料を輸入したことに因る所が多い。

而して支那事變の勃發は更に此の輸入増大に拍車を加へて本年十月末日迄の輸入超過額は既に六億八千八百萬圓に上り、昨年同期の一億五千一百萬圓に比し五億三千七百萬圓の増加となつてゐる。戰爭の遂行には尨大な量の物資を必要とするのであるから、其の一部を海外よりの輸入に俟つことは避け難いことであつて、事變の進展に伴ひ輸入が増加することは固より覺悟せねばならぬ所である。併し乍ら假に貿易の逆調が持續し國際收支の均衡が破れれば如何なる結果を齎すであらうか。

國際收支の均衡が破れれば爲替相場が低落するのを原則とする。我國の商品が近年大いに海外市場を席捲したのは低爲替に負ふ所大であつたことを考へれば、爲替相場の低落は輸出の振興を招來する

筈であるが、國際情勢の變化は所謂アウタルキ―經濟の對立となり、各國は競ふて關稅障壁を築き、或は輸入割當制、バーター制等を採用して輸入防遏に腐心してゐる爲、本邦商品の海外進出は爲替の低落に比例して期待することは出來ない。一方輸入品の價格は爲替低落に依つて昂騰し、外國に對して支拂ふべき負擔を著しく重加する。斯くして結局國內物價の昂騰を促進し、國民生活の安定をも害するの虞を生ずる。然らば如何にして國際收支の適合を圖るべきであらうか。之が爲には輸出の増進に努めることが急務であることは前にも述べた通りであるが、一方に於てどうしても輸入を抑制し以て軍需資材の輸入力を確保しなければならぬことになる。即ち先づ第一に不急不要品の輸入を抑制しなければならぬのであつて、戦地に於て我が將兵が困苦缺乏に耐えて奮戦しつゝある秋、不急不要な贅澤品の需要を思ひ止るが如きは國民として當然の義務である。然し乍ら現下の狀態に於ては不急不要品の輸入を抑制するだけでは不充分なのであつて、國民生活にとつて必要な物資の輸入をも或る程度制限することは亦止むを得ないのである。斯くして生ずる必需品の不足を補ふのが國産品である。結局國際收支改善の爲に最も近道であり、國民の心掛け一つで今直ちに、然も容易に實行し得ることは國産品の愛用に依る輸入の抑制である。

(二) 國産愛用と國産振興

産業の振興を圖る爲には生産と消費の兩方面に於て條件を具備しなければならぬ。消費者にとつて最も望ましいことは生産品の品質が優良であると共に、それが安く供給されることである。悪い品

物や高い商品は如何に宣傳しても賣行を増加することは困難である。優良なる製品の廉價なる供給が消費増進の條件である。併し乍ら品質を統一改善し、生産費を低下するには大量生産が必要である。大量生産を爲す爲には之を消化する需要の存在が前提であつて、賣れない商品の製造に多額の資本を投じ、技術の改善に努め、大量生産を敢てする者はあるまい。例へば棉花羊毛の輸入を制限し、之が代用品を供給すべくステープル・ファイバー工業が起つても、誰もステープル・ファイバーの洋服を着なかつたら其の會社は立ち行かず、如何に國策の見地から重要な工業であつても其の繁榮を見ることは出来ない。一般國民が國産品を使用すれば其の需要は増加し生産者は安じて品質改善に努めると共に、大量生産に依り生産費を低下し、値段を安くすることが出来る。斯くして培はれた我が國內産業はやがては國際市場に覇を唱える實力を得て輸出の増進を招來するに至るのである。斯くして國産愛用と國産振興は互に原因結果を爲して、國策の線に沿つて發展することになる。國産愛用こそは國民の心掛一つで國策的工業を振興せしめる重要な鍵である。

三 國産愛用と國民の協力

以上述べた國際收支の改善と國産工業の振興とは國産愛用が齎す大きな効果であつて、明治以後の我が歴史を回想しても外國の事例を見ても國民全體の國産愛用が之に與つて力あることを知るのである。

而して今現に我國が臨んで居る難局を打開する爲に我々國民が協力すべき手段として國産愛用は矢張り最も有力にして最も實行容易なるものの一たるを失はない。唯茲に注意すべきは國産品といふも主として國産の代用品を指して居ることである。之は國産愛用の意味を從來より一層徹底せしめたものであつて、今再び國産愛用の意義を説いて國民の協力を求める所以でもある。平時に於て従來行はれて來た國産愛用は品質の上からも價格の上からも外國品に遜色のない國産品を使用すべしといふ經濟的に尤もな運動であつて、品質と價格の如何に拘らず國産品を愛用すべしと強要するものではなかつた。明治時代に於て歐米の文明が一時に我國に氾濫して國民は之に眩惑され、我國古來の文化を忘れて歐米崇拜熱に冒された。之が舶來品を尊重せしめた一の原因であつた。然し又實際日本の工業は歐米諸國に比して著しく立ち遅れて居たので、生産品の品質に於て劣つて居たことも事實であらう。斯かる技術的な理由の外に、非良心的な事業家が粗製濫造して國産品に對する不信を惹起したことも否定し得まい。舶來品崇拜の陋習を植えつけた責任の一半を彼等も負つて然るべきである。然し一時の陶醉から覺めた國民は日本獨特の文化を自覺したし、本邦の工業も最早昔日のそれではない。故にこの誤れる觀念を破つて、品質に於ても價格に於ても外國に劣らぬ國産品があつたならばそれを愛用すべきである。之が從來の國産愛用運動の精神であつた。そして現在に於ても外國品類似の名前を國産品につける風習が残つて居る事實から見て、國産愛用の自覺と外國品に對する盲信打破を促すことは必要であらう。

併し乍ら現在外國品を棄てて國産を振興せんとするには一の新しい意味がある。それは即ち原料問題である。我國は天然資源に比較的乏しい爲に本邦工業は多量の原料を外國に仰いで居る状況である。然し斯く原料を外國からの輸入に俟ち、輸入原料を基礎として工業が築かれるといふことは、其の工業がそれだけ外國に依存することゝなる。若し一朝有事の際原料の輸入が杜絶し又は困難となつたなら國內産業はどうなるであらうか。之は國防上から見ても致命的な缺陷である。茲に於て平時から原料の自給等を講じて之に備へる必要が生ずる。即ち工業の原料材料の輸入は仕方がないと放任すべきものではなく、幾分でも國內で増産するか或は代用品に求めて原料の自給、輸入の減退を期さなければならぬのである。即ち最近の國際情勢は從來の原料政策を改め、國産原料で間に合ふもの又は代用し得るものを研究し之を愛用することを急務とした。斯くして國産愛用運動には代用品又は代用原料品を愛用して國內産業の獨立性を確保するといふ新しい積極的な意義が加はつたのである。そして本來の意味の國産愛用は既に可成徹底して居る今日、主として問題となるのは原料政策と關聯する代用品工業の確立であり、之に協力せんとする國民の代用品の愛用である。

外國品と同種の國産品が存する場合に國産品を愛用することはさして難しいことではないが、代用品の使用には尙多少の苦痛を伴ふ場合があり得るのである。一國の原料政策の遂行の爲には多少の無理も生ずるであらう。斯くして茲に所謂協力とは何等かの形に於て國民に不自由を齎し苦痛を與へるかもしれないことは豫め覺悟して置くことを要するのである。勿論政府は國民の不自由と苦痛を最小

限ならしめる様努力すべきであるが、我々國民としては戦線にある將士の勞苦を思へば銃後の御奉公として多少の不便や不體裁を忍ぶのも亦當然であらう。國民が暫く辛棒して代用品を愛用すれば、品質の改善も加へられ價格も安くなり、纏て代用品が代用品でなくなる日も來るであらう。斯くして國産愛用は單に經濟的な觀點に立つ主張から國策に對する國民の協力へと高められるのである。

四 愛用すべき國産代用品

輸入外國品に代用し得べき國産品の中には代用原料品と代用製品の別がある。勿論この區別は嚴格なものではないが、前者は例へば天然樹脂の代用として人造樹脂を用ゐ、生ゴムの代りに人造ゴム、再生ゴムを使用し、ミルク・カゼインに代ふるに大豆粕よりのカゼインを以てし、木材バルブ代用の薬バルブといふが如きである。然し之等は一般消費者に直接には關係のないものであつて、この原料から製品を作る事業者の研究に俟つべきものであるから、之等に付ては最後に參考として述べることにし、先づ直接消費者の手に觸れる代用製品の二、三を擧げて簡單に説明を加へることゝしよう。

○ステープル・ファイバー製品

去る十一月一日より施行されたステープル・ファイバー等混用規則により一定の毛織物には一定の重量割合に依りステープル・ファイバー等を混用することが強制されるに至つた。斯くして羊毛綿花からの製品の代用品として、ステープル・ファイバー製品は代用品中の花形として非常時の舞臺

に登場した。ステープル・ファイバーは針葉樹から作られたバルブを苛性ソーダや二硫化炭素等の薬品で処理して溶液となし、之を小さな孔から凝結液内に押出して糸を作り、之を更に短く切斷して綿の様にしたものであり、之を紡績機械で紡績して織物に織るのである。

羊毛から作る毛織物は國産品であるが原料たる羊毛は殆ど全部を外國からの輸入に仰いで居り、昭和十一年に於ける其の輸入額は約二億圓に達し、輸入總額の七・三パーセントを占めて居る。假に羊毛輸入額の三、四割を節約しても六千萬圓乃至八千萬圓の節約となつて國際收支に貢獻することになる。然し毛織物は軍需品として相當多量使用されてゐるから、三、四割の輸入制限を爲す爲には日常生活に於ける一般の使用を可成節約しなければならぬ。我國民の衣類の中で最も需要の多い綿織物の原料たる棉花も亦其の大部分を海外から輸入して居る。昭和十一年には約八億五千萬圓といふ巨額に上り、輸入總額の約三十パーセントを占めて居るから、其の一割を節約するとしても八千五百萬圓、二割を節約すれば一億七千萬圓の輸入が減少することになる。

羊毛、棉花の兩者は氣候風土等の關係から我國に於ける生産増加は殆ど不可能である。故に専ら輸入原料に俟たねばならないのであるが、若し輸入が困難となる如き事情が発生したならば之を原料とする工業は忽ち崩壊し、軍需品としても國民生活必需品としても缺くことを得ない衣類の供給が斷たれることになる。故に平時より之等の輸入原料の代用品を研究し、其の代用品の基礎の上に工業を確立することが急務である。現に「輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律」に依て棉花、

羊毛共輸入の制限を受け、ステープル・ファイバー等の代用を容易ならしめる爲に絶好の機會を提供して居る。ステープル・ファイバー製品は洋服、和服等の衣類、毛布から足袋、靴下、襦袢、敷布、ハンカチ、タオル、手拭に至る迄凡ゆる織物製品の分野に互り、或はオール・ステープル・ファイバー製品として、或はステープル・ファイバー混用品として進出して居る。以前は製品の品質に就て疑問の點も多少あつたが、現在に於ては製造技術の發達と防水、防縮、防皺加工技術の進歩に依り毛織物、綿織物に比して遜色なく、細い點では一利一害あるも價格は非常に低廉で、些かの不安もなく之が使用を奨励することが出来る様になつたのである。ステープル・ファイバーの織物及交織物の愛用により斯業の發達を見るならば、棉花羊毛の輸入は減少し、バルブの輸入はあるとしても額としては比較にならないから、結局國際貸借の改善に資する所も多く且又一朝有事の際の安全性を確保することが出来るのである。

○絹製品

生糸及絹織物が我國輸出品の太宗なることは周知の事實であつて、昭和十一年の生糸及絹織物の輸出額は四億六千萬圓に達し我國輸出總額の十六パーセント強に當つて居る。之は全く我國の絹織物技術が世界に冠絶して居るが爲であつて、今後益々此等産業の發達を圖り輸出の増進に努めねばならぬことは云ふ迄もない。而して絹織物は固より独自の性能を有して居るのであつて代用品ではないのであるが、之が純然たる國産品たる意味に於て之を使用することは即ち棉花、羊毛の消費を節

約し得るわけである。尙生絲は最近に於て新規用途の研究が相當に進んで居り種々の新規な製品が作られて居るが、特に特殊加工を加へると非常に羊毛に類似する纖維が得られるから、之を羊毛と混織すれば洋服地其の他の利用價值の高い羊毛代用品が出来ることは注目し値ひすると思はれる。

○人絹製品

人絹工業は最近十數年の間に異常なる發展を示した。即ち昭和十一年度に於ける生産高は高率操短にも拘らず二億八千萬封度に達し、長年世界第一位の人絹生産國として覇を唱へて來た米國の夫れと正に伯仲し寧ろ實質的には之を凌ぐに至つたのである。人絹はステープル・ファイバーと同じくバルブを原料とするものであつて、其の製法も大體同様であり、ステープル・ファイバーと共に有力なる代用品である。

○水棲動物皮革製品

靴、鞆、トランク、家具、馬具、機械用品、軍需用品等皮革の利用される範圍は廣く、殊に軍需方面の需要は今後も益々増加するであらう。然るに我國に於ては牧畜は地勢風土の關係から捗々しからず、皮革の原料も大部分は海外からの輸入に仰ぎ、昭和十一年の輸入額は三千萬圓近くに達して居る。製革業としては相當發達して居るが、原料の國內自給は到底之を望み得ない。然るに一方我國は四方海に圍まれ、水産動物に富んで居るから、之の皮を利用すれば皮革の海外輸入を節約し得るのである。鮫皮、鮭皮で作つた靴、ハンドバック等體裁も美しく、皮質も強靱であり、鯨皮と共に

に大いに其の將來が期待されるのである。

○擬革、ヴァルカナイズド・ファイバー製品

前述の如き皮革の輸入減少に貢獻する爲に化學的に製造される之等の製品も大いに愛用すべきである。擬革は綿布に塗料を塗つたものであり、後者は紙質のものであるが、外見は眞の皮革と殆ど差異なく、トランク、靴、家具等として見事なものが既に店頭に出て居る。

次に代用原料品の主なるものを掲げて參考に供することゝし度。

○人造石油

石油が國防上如何に重要であるかは今更言を要しない所であるが、我國の石油資源は貧弱であつて石油總需要量の九割以上は海外からの輸入に依存して居る状態である。此處に燃料國策の緊要性があるのであつて、政府も早くから其の解決に苦心して來た次第である。而して液體燃料自給方策として先づ考へられるのは内外石油資源の開發であるが、既に世界の主要なる石油資源が英米資本に依り獨占されて居る現状を考へ又國內油田の過去の實績に顧みるときは、今後益々増加すべき石油の需要量を天然石油のみに頼ることは實際上不可能であると謂はざるを得ないのである。茲に於て政府は天然石油に代るべき代用燃料に依り燃料問題を解決することを決意し、アルコールの混用を強制すべく其の實施準備を進めると共に人造石油事業の確立に邁進しつゝある。

然らば人造石油とは如何なるものであるかと言ふと、其の製造方法は種々あるのであるが、要するに

石炭を原料として人工的に製造した石油である。現在製造方法としては低温乾餾法、合成法及水素添加法の三種が多く行はれて居る。幸にして人造石油の原料たる石炭は我國及友邦滿洲國を通じ相當多量に存するのであるから、人造石油事業の將來は充分見るべきものがあると期待し得るのである。

○薬パルプ

製紙業、人絹工業、ステープル・ファイバー工業の發達に伴ひ原料パルプの需要は莫大なものである。パルプの原料たる木材は北海道、樺太に於て多量の産出があるが、國內の資源にも自ら制限があるから、輸入パルプを以て需要の不足を補はねばならぬ現状に在る。我國には多量の藁が生産せられる點に着目し、最近其の藁から洋紙、和紙抄造用のパルプを作るに至つたが、色相良好で輸入パルプの防遏に貢献するものと認められる。

○人造樹脂

松脂とかコパルガム、琥珀とかの天然樹脂は塗料、印刷インキ、リソリウム等化學工業には缺くべからざる原料であり、又電気絶縁材料、美術裝飾品材料として緊要のものである。之等の工業が最近我國に發達して以來需要は年々増加する一方であるが、其の供給の大部分は海外からの輸入に仰いで居る状態である。我國は氣候風土の關係上天然樹脂は其の生産極めて少く、又松脂の如く我國に生産あり且其の増産の奨励されて居るものでも多くを望むことは出來ず、又無限に發達する化學工業に對して天然産は自ら制限があるから、遂に化學的合成法に依つて同性質の代用品を作り出す

に至つたのである。

最近我國では製鐵、石炭液化、瓦斯事業等に於ける副産物たるコークスを利用して製出することに成功し、爾來此種工業は漸次發展せんとする機運に在り、既に市場に製品を出して大いに販路を擴げつゝある。

○人造ゴム

天然ゴムは熱帯に生育する樹木より採取したものであつて、自動車、自轉車、飛行機のタイヤ、チユーブ、ゴム靴、醫療用品、電気絶縁材料等の材料として其の需要は莫大なる量に上り、軍需用としても重要な物資であるが、我國には全然産出がなく年々七千萬圓前後を海外より輸入して居る。歐米に於ては早くから天然ゴム代用品の發見製造に苦心し、既に人造ゴム製造の工業化に成功し之を利用して居る所もある。我國に於ても目下研究中であるが、人造ゴムが市場に現はれるものさして遠くはあるまい。

尙代用品ではないが外國品と同種の國産品で我々の愛用を待つものとして自動車、自轉車、ミシン、寫真機、フィルム、時計、樂器等がある。之等の中自動車に付ては兎も角、他は全部「輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律」に依つて輸入を禁止されて居る。之は輸入を禁止しても國産品を以て充分補給し得ると認められたからであつて、斯る輸入禁止が解かれても國産品を愛用する様に此の機會に國産愛用を徹底することが望ましいのである。

昭和十二年十二月一日印刷
昭和十二年十二月四日發行
昭和十三年二月十日再版發行

國產振興と國產愛用

編輯者

內閣、內務省、文部省

發行者

東京市麴町區內幸町二ノ一
舊貴族院內
瀨尾芳夫

印刷者

東京市麴町區麴町五ノ二
杉田彌太郎

發行所

國民精神總動員中央聯盟

電話銀座67

六六二九番
六七七四番
七七七二番
七三三番

行印所刷印屋田杉

終

0
9
7